

本道のものづくり産業振興の新たな展開方向（素案（案））

【策定の趣旨】

- ものづくり産業は、関連産業への幅広い波及や雇用の吸収などを通じて、本道経済を牽引する役割を担うことが期待されています。
- 道では、「ほっかいどう産業振興ビジョン」に基づき、「人々の生活を支える力強い地域経済づくり」や「本道経済の成長力強化に向けた取組の推進」などを柱に、ものづくり産業をはじめとする産業振興施策の推進にあたってきました。
- 本道経済の活性化と力強い地域経済づくりに向けては、ものづくり産業を取り巻く環境の変化に即応して、関係者が一体となって、今後の方向性を共有しながら、ビジョンに掲げた取組を加速し、「地域のものづくり力」の向上を図ることが必要です。

【新たな展開方向】

＜ほっかいどう産業振興ビジョン（平成23～26年度）の展開＞

産業振興施策の取り組むべき方向性と施策を体系的に整理、各種事業を展開
 ＜ものづくり関連施策＞

- 幅広いものづくり産業の振興
- 立地環境を活かした企業誘致の推進・集積の促進
- 地域における産業技術の高度化

環境の変化等

- 少子高齢化、人口減少の進行
→ 人材の確保、国内市場の縮小への対応
- 円高是正や株高などによる景気を持ち直しの動きの中、国の成長戦略の展開
→ 国の施策の積極的な活用
- 震災を契機とした企業のリスク分散等の動き
→ 本道への積極的な取り組み
- 製造業のウエイトが依然低く、産業集積も地域間でバラツキ
→ 地域ごとの強みを活かしたものづくりの振興



＜環境の変化等に即応してビジョンの推進を加速＞

ものづくり産業に関わる関係者が、今後4年程度を見据えたものづくり産業振興に向けた方向性を共有し、重点化した取組を官民一体となって推進

＜官民一体となった集中的な取組＞

【共通テーマ】

「地域のものづくり力」のアップ

【連携力】
農林水産業を
はじめ
フコとフコとが
手を結ぶものづくり

- 農林水産業等と連携した取組
- 「オール北海道」としての行動

【人材力】
主役は
ものづくり
“なでしこ”

- ものづくりの魅力の理解
- 価値観等を活かし積極的な登用
- 働きやすい職場
- 全員参加型社会への対応

【技術力】
ものづくりの
一丁目一番地
「技術力の
ワンランクアップ」

- 技術力のワンランクアップ
- 技術力のアピール
- 地域のネットワークの強化

【経営力】
地域の
「困った」に
明日の経営の芽
を見つける

- 改善意識の醸成
- 提案型企業への転換
- 公的支援の徹底的な活用

【共通テーマ】

「地域のものづくり力」のアップ

＜地域に徹底的にこだわる＞

- 一次、二次、三次産業の現場では、様々な工業製品が生産財として活用されていますが、道内におけるこれらの生産財は道外や海外メーカーの製品が多くを占めており、その中には道内企業の技術力で対応可能なものも少なくありません。
- こうした分野に果敢に挑戦し、道内企業が域内需要を獲得（使ってもらって置き換える）していくことが、本道のものづくり産業の持続的な発展に向けた第一歩と考えます。

＜地域から新たな需要を掘り起こす＞

- 本道は全国を上回る勢いで少子高齢化や人口減少が進んでおり、個人消費を含めた市場の縮小や生産年齢人口の減少が産業活動に与える影響などが懸念されています。
- その反面、生活や産業のあらゆる分野において、省力化や効率化、自動化といった面での潜在的な需要が生じるものと考えられます。
- こうした本道の産業経済や道民生活が抱える（抱えつつある）課題に対し、ものづくりの力で積極的に挑戦し、新たな稼ぎの種を見い出していく取組は、常に厳しい社会・経済情勢にさらされてきた本道であるからこそ可能と考えます。

＜地域から日本へ、そして世界へ＞

- 域内需要をできるだけ道内企業に置き換えるとともに、本道が直面する様々な課題の中から新たな域内需要を生み出し、これを取り込んでいくことは、「地域のものづくり力」の向上につながるとともに、将来的には、国内や海外でも同様に顕在化する需要に対して、本道ものづくり産業が優位性を発揮し、世界に打って出る大きな財産になるものと考えます。
- ものづくり企業をはじめとする関係者の皆さん、「『地域のものづくり力』のアップ」を合い言葉に、ものづくり産業の基本でもある「連携力」、「人材力」、「技術力」、「経営力」の4つの「力」の磨き上げに向けて官民一体となって取り組みましょう。

〔道の役割〕

- 「連携力」、「人材力」、「技術力」、「経営力」の4つの「力」の磨き上げにおいて、優先して取り組むべき事項を関係者が共有できるよう努めます。
- 道の施策はもちろんのこと、国の制度の効果的な活用を図りながら、ものづくり企業の積極的な挑戦を後押しします。

【連携力】 農林水産業をはじめプロとプロとが手を結ぶものづくり

〔趣旨〕

- 本道の農林水産業や食品工業は質・量とも国内トップクラスにあり、「北海道ブランド」として国内外に定着しています。
- これらの生産現場で導入されている機械は、その多くが道外や海外製で占められていますが、道内ものづくり企業の技術力を結集し、積極的に挑戦することで域内需要の獲得が可能と考えられます。
- さらに生産現場では、従事者の高齢化や海外輸入品との競争などにより、作業の効率化、コストの低減、さらなる品質の向上などの課題があることから、道内ものづくり企業の技術力で課題を解決し新たな需要を生み出すことも必要です。
- 域内需要や課題解決による新たな需要の獲得に向けて、道内のものづくり関連団体が「力」を合わせて行動することが必要です。

〔取組等〕

- 本道の強みである農林水産業や食品工業と連携し、ニーズとシーズをマッチングする取組を進めましょう
 - ・地域の農林水産関係者ともものづくり企業との協力体制づくり
 - ・地域のものづくり技術を結集した食品製造機械の高度化
 - ・現場ニーズを捉えた製品開発やメンテナンス対応による域内需要の獲得
 - ・高齢化等の課題解決のための生産効率向上や省力化への貢献
 - ・高鮮度輸送など農林水産品の高付加価値化につながる技術の共同研究
- 団結は力！「オール北海道」として関連団体が力を合わせて行動しましょう
 - ・農林水産業をはじめとする他の産業への一体となった技術力等のアピール
 - ・ものづくり産業の発展に向けた意見の集約と提言・提案の発信
 - ・業界相互の得意分野の理解を深め、ものづくり関係団体の大同団結への具体的なアクション

〔目標〕

- ※ 事業量による目標設定を検討中

【実践例】〔株式会社〇〇〇〇〕

【人材力】 主役はものづくり「なでしこ」

〔趣旨〕

- 本道においても、少子高齢化が進む中、若者や女性、高齢者が、それぞれの役割でものづくり産業に関わる全員参加型社会への対応が求められています。
- 特に、ものづくりの企画・提案から生産、品質管理、流通といった一連の流れの中に、女性の多様な価値観や感性を取り込むことで、新たな視点からの現場改善や商品開発、販売促進策の展開が可能となり、事業分野の拡大や業績の向上につながることを期待されます。
- しかしながら、本道の製造業就業者に占める女性比率は、全産業の女性比率と比較して低くなっており、ものづくり企業の採用募集への女性の応募も少なく、ものづくり産業が敬遠される傾向があると考えられ、ものづくり現場に関する正しい情報提供と受入側の体制づくりが必要です。

〔取組等〕

- ものづくりの魅力の理解に向けた取組を始めましょう
 - ・ものづくり企業で活躍する女性職員の働く姿のアピール
 - ・業界の研修などを活用した女性が働く先進企業見学による経営者の意識向上
 - ・インターンシップの受入などにより働く女性を応援する社内風土の醸成
- 女性の多様な価値観や感性を活かし、積極的な登用を進めましょう
 - ・社内のあらゆる業務分野に女性が参画できる仕組みづくり
 - ・社内検定制度など、性別にとらわれない評価システムの導入
- 働きやすい職場をつくりましょう
 - ・女性の視点での生産現場や社内施設（トイレ、更衣室など）の総点検
 - ・育児休暇の取得や休暇後の復職に配慮した就業規則の見直し
 - ・企業内保育施設など、女性が働き続けられる環境の整備
- 全員参加型社会への対応を進めましょう
 - ・「若者の学び直し」による技能者、技術者の人材育成に向けた環境の整備
 - ・高齢化時代に対応する技術伝承への社内体制の構築

〔目標〕

- ※ 事業量による目標設定を検討中

【実践例】〔株〇〇〇〇〇〇〕

【技術力】 ものづくりの一丁目一番地「技術力のワンランクアップ」

〔趣旨〕

- ものづくり企業にとっては、技術力は「一丁目一番地」です。
近年、自動車産業への参入に挑戦する企業を中心に、本道のものづくり企業の技術力は大きく向上してきましたが、一方で、道内全域に十分波及するまでには至っていない現状にあります。
- 今後とも、経営基盤の強靱化や市場の開拓・創造を進めていくために、全てのものづくり企業が、常に技術力を磨き続け、一步先を目指す「技術力のワンランクアップ」に向けた取組を意識していくことが必要です。
- また、個々の企業では対応が困難な分野でも、各企業が経営資源を持ち寄り、得意分野を補完し合うことで、実現への道筋を切り開く可能性が高まることから、地域における協働意識の定着を図っていくことも必要です。

〔取組等〕

- 日々の革新で技術力のワンランクアップを目指しましょう
 - ・「開発」、「分析」、「評価」、技術力向上のあらゆる場面での公設試験研究機関の徹底的な活用
 - ・先進企業等への職員派遣による新たなノウハウの蓄積
 - ・社内技能検定などのインセンティブ向上対策の導入
- 知られてこそ生きる技術、地域や自社の技術力をアピールしましょう
 - ・展示会や商談会を活用した技術力のアピール
 - ・表彰制度やコンクールへの応募
- なかまづくりでステップアップ、地域のネットワークを強化しましょう
 - ・大学や産業支援機関などとのネットワークづくり
 - ・異業種交流や経営者・技術者懇談などの研究会活動の促進

〔目標〕

- ※ 事業量による目標設定を検討中

【実践例】〔株〇〇〇〇〇〕

【経営力】 地域の「困った」に明日の経営の芽を見つける

〔趣旨〕

- 企業を継続・発展させていくためには、生産の効率化などによる経営コストの低減とともに、経営の柱となる市場獲得に向けた積極的な製品開発が重要であり、これら「守り」と「攻め」のバランスのとれた経営力の確立が必要です。
- あらゆる産業現場や住民生活の場では、様々な課題が潜在しており、こうした中から、新たな稼ぎの芽を見出し、経営の柱へと成長させていくためには、地域におけるニーズ、ウォンツを的確に把握し、解決策を提案していく企業内の体制づくりが必要です。
- また、新分野への進出等への研究開発や生産の効率化を一定水準で維持していくための生産設備の更新も避けては通れないことですが、公的支援の活用や新エネ・省エネ設備の選定による経費節減などにより、将来的な経営への影響を最小限にとどめる工夫が必要です。

〔取組等〕

- 経営基盤を支えるための改善意識を高めよう
 - ・ 経営者から従業員まで、意識を共有して全員参加型の経営を進める環境づくり
 - ・ 業務改善に係る社内提案表彰制度の導入
 - ・ 産業支援機関等が実施するQCD対応力強化の研修などへの参加
 - ・ ISOをはじめとする国内外の統一規格の取得への挑戦
- 困りごとを積極的に解決する提案型企业への転換を目指しましょう
 - ・ 他産業との交流の場など地域のニーズ、ウォンツを把握するための恒常的な場の設定
 - ・ 高齢化、環境問題など社会的課題の解決に向けた新分野への進出
- 公的支援の徹底的な活用で経営負担を軽減しましょう
 - ・ 産業支援機関との日常的な関係を積極的に構築し、必要な情報を常に獲得できる環境づくり
 - ・ 産業支援機関間のネットワークとハンズオン機能の強化により支援制度を地域に誘引する体制の構築
 - ・ 企業の成長ステージに応じた各種ファンドや公的支援の活用の促進

〔目標〕

- ※ 事業量による目標設定を検討中

【実践例】〔株〇〇〕